

## 11<sup>th</sup> APCCVIR: Asia-Pacific Congress of Cardiovascular and Interventional Radiology

小金丸雅道

2014年5月、シンガポールで行われた APCCVIR に参加しました。本学会は二年に一回開催されるアジア、アセアニアを中心とした学会ですが、US や UK などからの参加者も多く、世界規模レベルの IVR 国際学会に発展しています。シンガポールへは福岡からの直便があるため利便性も良く、地理的にも比較的近いので気楽に参加できます。



学会会場前にて

会場は有名な病院である Singapore General Hospital 敷地内の Academia というホールです。とても立派で美しい施設で、シンガポールらしさが漂います。会場は全部で 6 セッションに分かれ、熱い討論が行われていました。一人で参加しましたが、日本からの参加者も多く、仲のいい先生達と IVR について discussion を共有でき、とても貴重な時間を過ごすことができました。



アジアの学会らしい reception

僕の発表は oral presentation/featured abstract に変更されたため、準備の大変さを感じました。発表のみならず、質問される内容もあらかじめ考えていましたが、日頃からの英語勉強の必要性を痛感します。



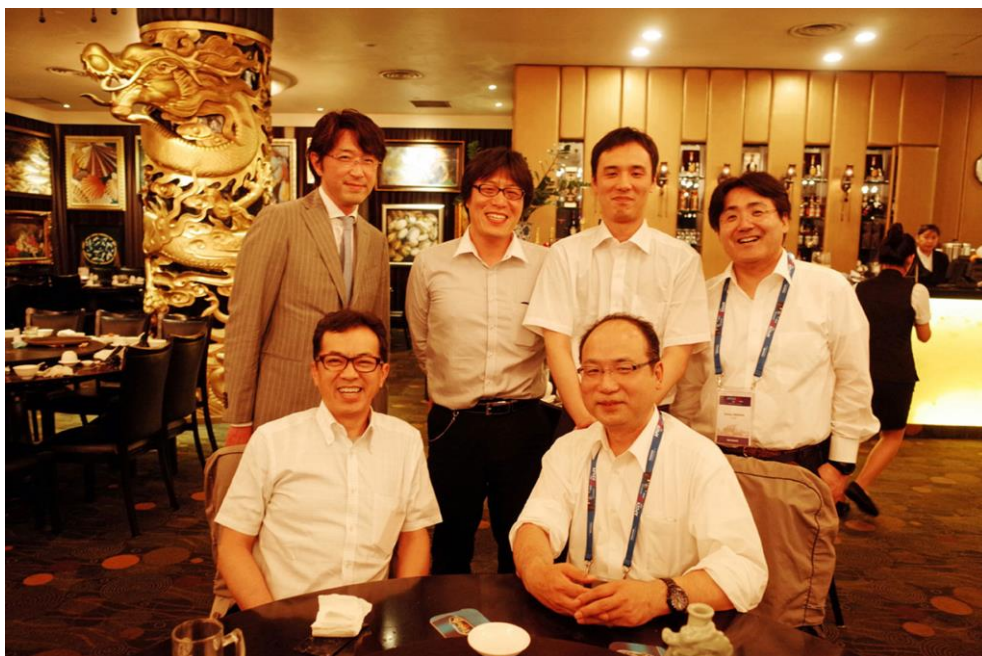
発表後、表彰？され記念写真撮影中

特に聞きたかった講演は、塞栓術 session でした。欧米で始まった前立腺肥大症に対する TAE は、その有用性と治療成功率の高さに驚きました。また骨盤内の動脈解剖、特に前立腺の動脈解剖を含めた教育的内容の講演は、基礎的事項が多いものの重要なことが網羅されており、今でも大変役にたっています。

Poster session はすべて EPOS で展示されていましたが、ややモニターが小さく見にくい感がありました。しかし内容の素晴らしい発表も多く、ひたすらメモをとって臨床、研究に活用しています。

様々な session の中で、最近流行の case based discussion session では、三重大大学の山門先生が発表されていた副腎腫瘍の ablation は、動物実験レベルでの正常副腎の ablation は vital sign の変動が顕著であるが、ヒトの転移性副腎腫瘍に対する ablation では、Ca-blocker にてほとんど血圧変動を抑えることができる、と興味深い発表がされていました。山門先生は、とても尊敬できる日本の interventionalist のお一人です。学会期間中は、いろんな先生と知り合いになることもできました。神戸大学教授、杉本先生、それから IVR の考え方が僕に

とっても似ている名古屋市大の先生、鹿児島大学の先生方々と夕食もご一緒し、プラス思考の成功理論を持つことができ、IVR で働く気概を再認識できました。



ここのチリクラブは最高でした！

本学会は、今後 NZ での開催が予定されています。チャンスあれば必ず参加するつもりです。